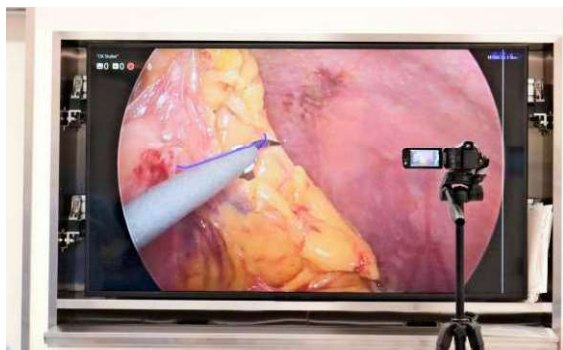


文字や線、映像の動きに対応する

九州大病院別府病院(別府市)と九州大病院(福岡県)は、新たな遠隔手術支援システムを

リアルタイムの映像に線や文字を書き込むことができる＝九州大病院別府病院



九大病院別府病院と九大病院 新たな遠隔手術支援導入

導入した。別府病院で手術する際、九州大病院にいる医師らが、リアルタイムの映像を見ながら手術指導できるようになった。

システムは九州大とソフトウェア会社が共同で開発。通信環境とタブレット、現地で観察する通常のモニターがあれば、いつでもどこからでも手術指導ができる。離れた場所にいる医師らが、手術中の臓器や血管などの映像を見ながら、アドバイスとなる線や文字を映像上に書き込むことができ、文字や線は映像が動くのに合わせて動く。従来の手術支援は、臓器を動かすと書き込まれた線は動きに対応せずそのままになることなどがあった。



モニターを見ながら手術する医師

今年2月のテストを経て、10月下旬、初めて別府病院での胃がんの手術で使用。九州大病院と映像を共有しながら、手術を進めた。別府病院で手術を担当した外科の津田康雄助教は「書き込まれた線が解剖の映像に合わせてついてくるので、動かしなくても消えたりずれたりしない」とメリットを話す。

現在、臨床研究の段階のため、今後は胃がん以外の大腸がん、膵がんなどの手術でも使用して、改良できる部分を検討していくという。

(広瀬悠一)